

表情豊かな女雛が完成



JA女性部一関中央支部舞川支部は2月14日、JA生活シーダーの佐藤米子さんを講師に軍手やフェルトを使い女雛作りをしました。

皇居で奉仕活動



JA管内で募集した皇居勤労奉仕団が2月16日までの4日間、奉仕活動を行いました。

笑顔で目指せ健康寿命100歳



JA女性部千厩中央支部は2月9日、女性部大学生生活講座を開きJAてんとうムシ体操やみつばち体操で交流を深めました。

力作が勢ぞろい



JA女性部藤沢中央支部は2月10日、女性部交流会を開催し、県産米の位置付けや特長、販売戦力について学びを深めたほか、部員が制作した作品展や「金色の風」の試食をしました。

花寿司で春を先取り



JA女性部東山中央支部は2月8日、太巻きの切り口が鮮やかな花寿司を佐藤京子さん(大東)の指導で作りました。



野菜作りの技術を磨く



JA女性部川崎中央支部は2月2日、春まき野菜講習会を開催し、これから始まる農作業に向けて知識を深めました。

女性の笑顔が地域の元気の源



JA女性部大東中央支部は2月15日、支部大会を開きアトラクションなどで盛り上がりました。

支店に彩り添える



JA女性部一関中央支部厳美支部の皆さんが制作した「つるし雛」が厳美支店を訪れる人の目を楽しませています。展示は3月末日まで。

優良者を表彰



一関市葉たばこ生産振興会は2月20日、総会並びに振興大会を行い、さらなる葉タバコ生産の振興に向け取り組むことを確認しました。

早めの確定申告を



JA千厩青色申告会は2月7日、通常総会と研修会を開き税制の改正点や確定申告の留意点などを確認しました。

一関産に愛を込めて



道の駅厳美溪(一関)はバレンタインデーに合わせて、ハート形の「バレンタインハートもち」「チョコレート大福」「プレミアムチョコイチゴ大福」を限定販売しました。



表彰を受ける最優秀賞の畠山さん㊤

生産基盤の拡大で信頼される産地へ

JAピーマン部会通常総会

JAピーマン部会は2月9日、通常総会を開きました。29年度の販売額は前年対比107%の3億461万円。30年度は部会員の栽培技術の向上、消費地ニーズに対応した流通販売の強化により3億3503万円の販売額を目指します。任期満了に伴う役員改選で菅原清信さん（藤沢）を部会長に選任。優良生産者表彰では畠山周八郎さん（藤沢）が最優秀賞に輝きました。



表彰を受ける最優秀賞の小山さん㊤

消費者ニーズに応えブランド発信へ

JAトマト部会通常総会

JAトマト部会は2月2日、通常総会を開きました。29年度の販売額は前年対比104%の3億9735万円。30年度は栽培基準の確立と個々の目標出荷量確保、生産・販売情報の共有化などで販売額4億7620万円を目指します。任期満了に伴う役員改選で南野晋さん（大東）を部会長に選任。優績部会員表彰では小山光雄さん（大東）が最優秀賞に輝きました。



表彰を受ける優良賞の藤野さん㊤

ブランド力の強化に向け部会一丸

高品質・安定出荷の確立を

JA花き部会は2月15日、通常総会を開きました。29年度は日照不足等で生産に苦慮し前年対比83.5%となりました。30年度は小菊の底力1ケース増量運動の継続と安定出荷で販売額4億2700万円を目指します。役員改選では小山浩さん（室根）を部会長に選任。優良生産者表彰では菅原賢三さん（室根）、藤野仁さん（千厩）が優良賞に輝きました。



なす栽培30年表彰を受ける菅原さん㊤

良品質出荷でクレームゼロ達成

販売額3億円を目標に

JAなす生産部会は2月13日、通常総会を開きました。29年度の販売実績は前年比91.4%の2億3851万円でしたが、目標としていた腐敗クレームゼロを達成。30年度は、栽培マニュアルを活用した栽培技術の高位平準化で産地拡大を図ります。席上、ナス栽培に30年取り組んできた花泉の菅原精子さん、小岩菜摘子さん、阿部弘喜さんが表彰されました。



表彰を受ける最優秀賞の千葉さん㊦



支部表彰を受ける室根支部長の小川芳正さん㊦

市場ニーズに応え長期安定出荷を目指す

JAミニトマト部会通常総会

JAミニトマト部会は2月23日、通常総会を開きました。29年度の販売額は前年対比91%の4061万円。30年度は高温対策に力を入れ、長期安定出荷できる産地の確立を目指し4800万円の販売目標を確認しました。任期満了に伴う役員改選では藤村照豊さん(室根)を部会長に選任。優秀生産者表彰では千葉康弘さん(大東)が最優秀賞を受賞しました。

子牛の生産率と品質向上を

子牛販売頭数3400頭を目指す

JA和牛生産部会は2月15日、通常総代会を開きました。29年度は販売頭数3357頭(前年対比99.2%)、販売額26億6319万円(前年対比98.1%)、生産者は減少したものの、中核若手農家の増頭で生産頭数の減少幅は狭まりました。30年度は飼養管理マニュアルによる優良子牛生産と各種補助事業の活用で、飼養規模の維持拡大を図ります。



名誉賞に輝いた細川さん㊦



優秀会員表彰で最優秀賞に選ばれた佐藤さん(花泉)㊦

さらなる乳質向上で安全・安心を届ける

JA酪農部会通常総会

JA酪農部会は2月23日、通常総会を開きました。29年度の出荷乳量は農家数と搾乳牛の減少で1万3417ト(前年対比94.8%)となりました。30年度は後継牛確保で生産基盤の維持・強化、乳質管理の徹底で安全・安心な生乳生産に努めることを確認。役員改選では千葉秀一部会長(千厩)を再任。乳質向上共励会では細川良則さん(東山)が名誉賞に選ばれました。

誰もが誇れる産地を目指して

生産量1200ト、販売金額3億円必達へ

JAきゅうり部会は2月26日、通常総会を開きました。29年度の販売額は前年対比94%の2億4933万円。施設栽培の出荷量は前年を上回りました。30年度は生産意識の統一を図り指導会や勉強会を充実させ、生産技術の統一と出荷量の増加に努めます。優秀会員表彰では、佐藤正己さん(施設・花泉)と佐藤実さん(夏秋・千厩)が最優秀賞に選ばれました。



設置状況を確認する会員

収量増大に向け新技術の情報共有

JA施設園芸環境制御研究会

園芸品目生産者の有志で設立した施設園芸環境制御研究会は2月8日、花泉町のイチゴ生産者、阿部和恵さんのハウスで現地研修会を開きました。会員や関係機関など約20人が参加し導入した器材の説明や経過などに耳を傾け、作物の生育や出荷の状況を確認しました。同研究会は収量増大に向けた新技術の確立を目指し関係機関と共に検証と研究を重ねていきます。



枝肉の販売単価、販売額最高、販売上物率で表彰を受けた佐々木信行さん(花泉) ㊟

肥育経営の安定化と所得向上を目指す

販売目標金額8億5千万円達成へ

JA肥育牛部会は2月26日開いた通常総会で、29年度について販売頭数743頭、販売額8億8971万円、上物率86.5%と報告しました。30年度は1頭ごとの能力を最大限に発揮させ、経営の安定化と所得向上を目指すとともに、地元での消費拡大に努めます。任期満了に伴う役員改選で、佐々木賢治部会長(花泉)が再任されました。



児童に手ほどきをする原田オーナーシェフ

五味五感の大切さを伝える

一流シェフによる味覚の授業

レストランあさひやオーナーシェフの原田良一さんは2月26日、磐清水小学校(千厩)で味覚の授業を行いました。講義では「五味五感」の大切さを学び、実習では室根産いわい鶏の胸肉ソテーなど地元食材を使った4品を作り全校児童で味わいました。原田さんは「地元食材の良さや食の大切さを伝えたい。閉校前の思い出として心に残して欲しい」と期待を込めました。



各校の取り組み発表を聞く参加者

課題を共有し活動の充実を

他校の事例から学ぶ

JAは2月15日、JA稲作体験事業にかかる意見交換会を開きました。学校職員や生産者、JA青年部員が参加。後継者問題や管理作業への関わり方などを検討しながら、次年度も学校と地域、JAが連携し積極的に取り組むことを確認しました。伊藤龍治専務は「食と農に関心を持ってもらうために教育は大切。今後も食農教育を支援していきたい」と意欲を示しました。